栃木

宇都宮支局
〒320-0027
宇都宮市塙田1-3-9
☎ 028・621・3611
FAX 028・650・1559
utsunomiya@sankei.co.jp
広告 028・622・5591
購読申し込み 0120・81・2950
配達・集金 0120・34・4646
紙面・記事 03・3275・8864
Web http://sankei.jp.msn.com/region/region.htm

食品検査結果を来月から公表

那須塩原市は、市役所などで実施している食品中の放射性物質の簡易検査について、検査結果を8月から公表することを決めた。市民からの要望を受け、公表に踏み切ることにした。

具体的には、8月以降、1週間分の全検査結果をまとめて翌週のホームページで公表する。公表内容は、測定日▽検体名▽重量▽採取地区▽採取年月日▽検査結果（測定値、検出限界）―などとしている。また、3月から7月の測定分についても市広報とホームページに掲載する予定だという。

食品簡易検査は今年3月から開始。6月までに市民から持ち込まれた食品の検査は1352件。このうち一般食品の基準値（1キロ当たり100ベクレル）を超えたのは259件で、キノコや山菜類が8割以上を占めている。

五輪サッカー副審 相楽さん激励

サッカーの国際審判でロンドン五輪に副審として参加する矢板市在住の相楽亨さん（36）の激励会がこのほど、同市役所で行われた。矢板小6年の岡田真生君ら4人が、市内9校の小学6年生330人が激励の言葉などを書き込んだ寄せ書きを贈った＝写真。

相楽さんは「日本代表、また矢板代表として頑張りたい。寄せ書きはホテルの部屋に飾り、大切にしたい」と語った。遠藤忠市長は「市民の思いを受けとめながら誇りをもってジャッジをしてきてほしい」とエールを送った。

宇都宮市が誘客キャンペーン

宇都宮市は首都と20日から9月2どをプレゼントす宮」キャンペーン

20日から8月19に市内キャンペー客らにギョーザの学などの施設利用宇都宮の農畜産物

また、21、22日「ミヤリー」が東ショップ「とちまんけん大会を開催ザがデザインされほか、抽選でギョ市観光交流課☎0

身近な健康の疑問

「心の窓」とも言われ、感覚情報の8割が入ってくるとされる「目」。それだけに、目に障害が起きれば、著しく生活の質が低下する恐れがある。白内障、緑内障、糖尿病網膜症などの症状、原因、治療法を伺う。

白内障・緑内障・糖尿病網膜症などの眼病

早期発見、治療が重要

大野研一（おおの・けんいち）
昭和30年12月、東京都生まれ。東邦大学医学部卒業。横浜船員保険病院、朝日生命成人病研究所付属丸の内病院（非常勤）勤務を経て、大野眼科クリニック（佐野市赤坂町）院長。日本眼科学会専門医、県眼科医会広報担当理事。

――まず目の構造を教えてください

大野研一医師　カメラに例えると、角膜と水晶体はレンズ、網膜はフィルムに相当します。光が眼内に入ると、眼底、網膜の中心にある黄斑部に焦点を結び、視神経を伝わって脳へ行き、視覚を認識します。

――白内障とはどんな病気ですか

水晶体が濁ってきたものを言います。外傷、先天性、アトピー、薬剤、糖尿病などによることもありますが、最も多いのが老化による加齢性白内障です。初期は自覚症状があまりなく、進行すると、かすみ目、まぶしさ、視力低下などの症状が出現し、さらに進むと、ほとんど見えなくなります。

――どんな治療がありますか

点眼薬がありますが、完全に治すのは困難で、根本的には手術療法になります。現在は超音波乳化吸引法を用い、濁った水晶体を取り除き、眼内レンズを挿入する手技が主流です。

通常は20～30分ほどで終了し、日帰り手術も行われています。まだ一般的ではありませんが、多焦点眼内レンズや乱視矯正眼内レンズも登場しています。

――では緑内障は

眼血流低下や眼圧などで視神経に障害が起き、視野が徐々に狭くなっていく病気です。岐阜県多治見市で行われた疫学調査で、40歳以上の20人に1人が緑内障であることが明らかになりました。厚生労働省の報告では視覚障害者手帳交付の原因疾患の1位になっています。

初期はほとんど症状がなく、進行すると片目で見ると見えない部分があったり、視野が狭くなったりします。さらに進行すると見えない部分が広がり、失明に至る危険性もあります。

――眼圧が正常なのに、緑内障になる人がいるそうですが

正常眼圧緑内障（NTG）です。先の疫学調査で、緑内障患者の72％がNTGと分かりました。眼圧の正常値は10～21㎜Hgで、一般的に緑内障は眼圧が高い状態が続くことで神経が障害され、視野が狭くなっていくのですが、NTGは眼圧が正常範囲なのに発症します。

日本人に特に多く、強度近視は発症リスクが高いといわれています。

――早期発見する方法は

眼底検査で視神経乳頭のくぼみの状態をチェックします。また必要に応じて視野検査をします。眼圧が高ければ、NTG以外の緑内障が疑われます。

――治療はどのように

いったん視野が欠けてしまうと元に戻すのは困難です。治療の目的は病気が進行、悪化しないようにすることで、原則は点眼薬です。薬物療法で眼圧が下がらないときは、レーザー治療を検討することもあります。

それでも効果が思わしくないときは、手術が必要になります。緑内障は症状を自覚したときには病状がかなり進行していることがあり、早期発見が重要です。

――糖尿病網膜症は緑内障に次いで、中途失明の原因の2位だそうですが

厚労省の推計では、40歳以上の1割が糖尿病有病者で、働き盛りの約300万人が網膜症を発症し、毎年約3千人が失明に至っています。

糖尿病で高血糖の状態が長く続くと網膜の血管障害が起こり、出血、浮腫、さらには硝子体に出血を起こし、続発性緑内障や網膜剝離をきたし、失明することもあります。初期にはあまり自覚症状がなく、進行すれば視力低下、物がゆがんで見える、黒いものが飛んで見える飛蚊症などの症状が出ます。

――どう治療しますか

血糖コントロールが基本です。血糖値（HbA1cなど）を良好に保つことで発症や進行を予防することが可能で、内科医との連携が不可欠です。

網膜症が悪化したら、レーザー光凝固療法を検討します。適切な時期に行えば、かなり有効です。処置をしても視力が良くなるわけではありませんが、将来の失明予防、安定した視力維持のために必要です。

レーザー治療にもかかわらず網膜症が悪化すれば手術療法が必要です。

――そのほかの眼病は

最近、加齢性黄斑変性症という病気が増えています。黄斑部に異常が起きる病気で、黄斑付近の細胞が加齢とともに萎縮する「萎縮型」と、新生血管と呼ばれる異常血管が発生して起きる「滲出型」の2つのタイプに分かれます。

滲出型は萎縮型より病気の進行が早く、急激な視力障害を起こすのが特徴です。

――病気になると

見たい部分がゆがんだり、ぼけたり、暗かったりする症状が出ます。日本でも増えており、50歳以上の約80人に1人の割合で発症する恐れがあります。

治療は薬剤を用い、病変部にレーザーを照射する光線力学療法や、最近は新生血管を抑制する作用のある薬を注射する抗血管新生療法（抗VEGF療法）が効果を上げてきています。

視覚障害が深刻にならないよう早期発見、早期治療が何より重要です。40歳を過ぎたら、眼科専門医による精密検査を受けられることをお薦めします。

（聞き手　高橋健治）

あすのこよみ

（21日）
旧6月3日
《友引》

月齢…… 1.9
日出…… 4：38
日入…… 18：55
月出…… 6：34
月入…… 19：52
満潮…… 4：25 / 18：04
干潮…… 11：23 / 23：35
中潮……（大洗）